

幼雛期管理に着目した「みやざき地頭鶏」生産性向上対策試験

○堀之内正次郎・甲斐康孝・加藤さゆり・中山広美¹⁾

(宮崎県畜試川南・¹⁾宮崎県中部農林振興局)

【目的】

宮崎県のブランド地鶏「みやざき地頭鶏」が抱えている課題の一つに、「育成率の改善」がある。育成率を改善するためには、幼雛期の管理を徹底し、初期発育を改善することが重要である。そこで、「みやざき地頭鶏」の生産性向上を図ることを目的に幼雛期に着目した各種試験を展開した。

【材料および方法】

試験 1：幼雛期飼料の練り餌処理が発育に及ぼす影響

水と飼料を重量比 1:1 で混合した練り餌を用い、給与期間を 1,3,7 日の 3 区分に分け、対照区を含む 4 区を設けた。供試鶏は同日ふ化した「みやざき地頭鶏」ひなを各区 100 羽ずつ用いた。調査項目は各週齢体重、飼料要求率、体重変動係数とした。

試験 2：幼雛期の飼槽面積の違いが発育に及ぼす影響

ふ化直後から 4 週齢までの期間の飼槽面積を 4 区(16.5, 24.8, 33.1, 41.3 cm²/羽)設定し、飼槽面積以外は同一の環境条件で飼育した。供試鶏は同日ふ化した「みやざき地頭鶏」ひなを各区 200 羽ずつ用いた。調査項目は各週齢体重、飼料要求率、体重変動係数とした。

試験 3：幼雛期飼料の高 CP 化が発育に及ぼす影響

慣行飼料 (CP22%) のみをふ化日から 14 日間給与する対照区、慣行飼料に大豆粕 (CP45%) 5%と魚粉 (CP67%) 2%を混合した高 CP 飼料 (CP24%) をふ化日から 7 日間 (7 日区) および 14 日間 (14 日区) 給与する試験区を設けて飼育した。供試鶏は同日ふ化した「みやざき地頭鶏」ひなを各区 150 羽ずつ用いた。調査項目は各週齢体重、飼料要求率、体重変動係数とした。

試験 4：えづけ開始時期の違いが発育に及ぼす影響

同日ふ化した「みやざき地頭鶏」720 羽を供試し、鶏舎への入雛日を「ふ化日」「ふ化翌日」に分け、さらにそれぞれのえづけ開始時期を「入雛直後」「入雛 2 時間後」に分けた。えづけ開始時期以外はすべて同一の環境条件で飼育した。調査項目は各週齢体重、飼料要求率、体重変動係数とした。

【結果および考察】

試験 1

練り餌を給与した区の鶏は有意に体重が重く、体重変動係数が有意に低かった。また、練り餌給与期間は 1 日間でも有意な効果が得られた。

試験 2

飼槽面積が大きい区の鶏は有意に体重が重くなり、出荷体重においても同様の傾向が見られた。

試験 3

高 CP 飼料を給与した区の鶏は有意に体重が重くなり、出荷体重においても同様の傾向が見られた。一方で、高 CP 飼料給与期間の違いは明確でなかった。

試験 4

ふ化日に入雛およびえづけした区の鶏は有意に体重が重くなり、出荷体重はえづけが最も遅かった区の体重は有意に軽くなった。

以上 4 試験の結果から、試験 1 は飼料と水を効率よく摂取することが、試験 2 は雛が飼料を食べやすい環境が、試験 3 はえづけ飼料の栄養強化が、試験 4 は一刻も早いえづけが、それぞれ重要であることが明らかになった。また、幼雛期の管理の違いによって初期発育は大きく異なり、その差は出荷体重まで影響することが明らかとなった。さらに、各試験の鶏体重データを精査したところ、ふ化日～1 週齢の体重増加量と出荷体重に有意な正の相関 ($R^2=0.1745$) が見られた (図 1)。これは幼雛期の中でも特に 1 週齢までの管理を最重視する必要があることを示している。

これらの成果を踏まえ、「みやざき地頭鶏飼養管理マニュアル」の改訂版を作成し、生産基盤の強化に努めていく予定である。

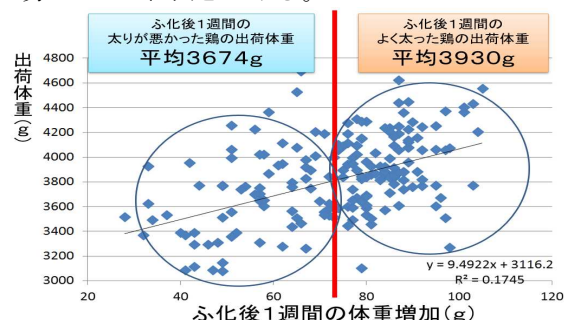


図 1 ふ化後 1 週間の体重増加量と出荷体重の関係